

令和2年度
まちづくり円卓会議報告書

西東京市市民協働推進センター

目次

1. まちづくり円卓会議 要約	1
2. 令和2年度まちづくり円卓会議	2
3. 「みんな いろいろ ～LGBTQ から話し合おう～」	2
開催状況	
会議メンバー	
概要	
議論の記録	
成果と課題	
アンケート	
4. その他	4

(敬称略)

1. まちづくり円卓会議 要 約

「まちづくり円卓会議」は、平成 24 年度から地域連携促進事業の中で平成 30 年度まで重点事業として実施しました。平成 31 年度は 1 テーマ 1 回の会議となり、令和 2 年度では 1 回実施し、まちづくり円卓会議の事業は終了となりました。

平成 24 年度から平成 25 年度にかけて、テーマを「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」として開催し、農福連携の居場所づくりの活動を実施したり、会議メンバーを中心に、自主的に活動するグループ（ノーマライゼーション西東京の会）の誕生にも繋がりました。

平成 26 年度、平成 27 年度には、2 つ目のテーマとして「子どもの声に向き合うために～今私たちにできること～」を取り上げ、会議メンバーが関わっている「放課後@カフェ」を後押しし、会議メンバーを中心とした自主的に活動するグループ形成（西東京子ども放課後カフェ）に繋がり、市内中学校内での放課後カフェは 7 か所まで増えました。

平成 28 年度には、公民館の社会教育とゆめこらぼの市民活動支援を連携し、相互に循環・協働する動きにつなげる試みとして、初めて公民館の連続講座と連携・共催で「まちづくり円卓会議」を開催しました。柳沢公民館の「いきいき超高齢社会チャレンジ講座」全 7 回の講座の 6 回目にまちづくり円卓会議 1 回目を行いました。2 回目のまちづくり円卓会議では「70 歳からの地域デビューについて考える」とテーマを絞り、より具体的な提案をもとに話し合いを実施し、具体的な方向性について会議メンバーだけでなく参観者とともに合意することができました。

平成 29 年度は、前年度から継続し、70 歳代からの地域デビューをテーマに、柳沢公民館と連携・共催でまちづくり円卓会議を実施しました。会場の参観者との意見交換や地域デビューに関するアンケートなど多様な意見を反映した話し合いを進めることができました。そして、まちづくり円卓会議での話し合いを公民館講座に繋げ、新たな地域活動の担い手として繋がる方向性の試みをスタートさせることができました。

平成 30 年度のまちづくり円卓会議は、「空き家」と「ひきこもり～いきづらさ～」をテーマに会議を 1 回ずつ開催しました。いずれもテーマに関わる当事者から話を聞き、多様な視点から事実に向き合い、参観者で共有しました。様々な事実や事例などが提供され、当事者の課題を社会課題として認識することに繋がりました。

令和元年度は、2 回まちづくり円卓会議を開催しました。「ひきこもり～ふみだすきっかけ」は、前年度のテーマを継続して会議メンバーの連携や協働のアイデアの共有に繋がりました。

「再出発ができる社会へ・・・少年・少女との伴走を考える」では、子どもたちとの関わりをもつ地域のステークホルダーと現状を共有しました。取り上げにくいテーマに向き合い、事実を知ることから、自分こととして向き合うきっかけになりました。

2. 令和2年度のまちづくり円卓会議

今年度のまちづくり円卓会議は、「みんな いろいろ～LGBTQ から話し合おう～」を話し合いのテーマとしました。ゆめこらぼ登録団体レインボーコミュニティ西東京さんの「1 団体だけでは解決できない」という言葉をきっかけに、多様性を尊重する社会の実現にむけて子どもたちや若者たちと関わりのある地域のステークホルダーとまちづくり円卓会議を開催し、理解を深め合いました。

まちづくり円卓会議メンバーは、立場の違う当事者と子どもたちと関わりのある地域のステークホルダーで構成しました。

筋書のないまちづくり円卓会議は、ファシリテーターが進行し、話し合いの流れはリアルタイムに板書を行い、見える化しました。

当事者から提供された情報は、社会課題として協働意識は高められ、円卓会議メンバーも参観者も納得度の高い開かれた話し合いの場となりました。

3. 「みんな いろいろ～LGBTQ から話し合おう～」

開催状況

(1)日時：令和3年3月27日(土) 13:30～16:30

(2)場所：田無総合福祉センター 3階 第一会議室

(3)参加者：ファシリテーター 山ノ内凛太郎、米元洋次（合同会社 Active Learners）

板書 脇岡優美子 松本望美（合同会社 Active Learners）

会議メンバー 6人（以下のとおり）

参観者 10人

(4)会議メンバー：石坂わたる（中野区議会議員）、谷川由起子（西東京市子どもの権利擁護委員（子どもの相談室ほっとルーム））、荻野雄飛（にじーず スタッフ）、長谷川和子（けやき小学校施設開放運営協議会 管理者）、星竜也（レインボーコミュニティ西東京 事務局）、山下純平（アフタースクール「common」施設長）

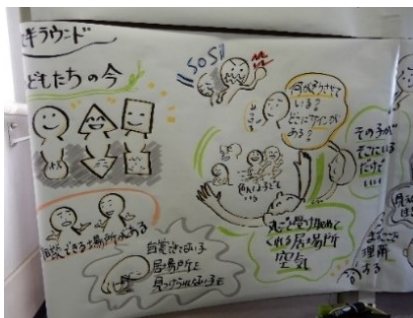
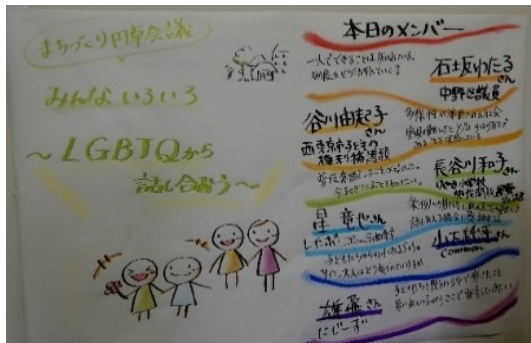
(5)概要：「みんな いろいろ ～LGBTQ から話し合おう～」をテーマに、当事者や関係者と関わりのある立場の違う6人が円卓会議メンバーとして対話を行いました。

最初に、当事者の立場から現状や子どもたちへの思いなどテーマの前提となるお話を伺いました。「聴く」「訊く」を意識した「ききあいの場」からは多様な視点からの情報を知り合い、現状を広く把握することができました。参観者は、任意で色シールを使い共感したことや気になることなど板書への意思表示、付箋紙にコメントを記入するなどオブザーバー参加しました。後半は、多様性を尊重する社会をイメージし、実現のためにどんなことができそうか対話が続けられました。終わりには、円卓会議メンバー一人ひとりから、今後、自分がやってみたいことを宣言し、閉会となりました。

議論の記録

まちづくり円卓会議の対話は、リアルタイムでグラフィックに変換し、可視化し模造紙に記録しました。

板書 (一部)



成果と課題

- ・「みんな いろいろ ～LGBTQ から話合おう～」をテーマに取り上げ、立場の違う当事者と子どもとの関わりのある関係者で、話し合いの場をもつことができました。
- ・円卓会議メンバーも参観者も多様な視点から学び、新たな気づきに繋がりました。
- ・オブザーバーの参観者は、色シールや付箋を使い、話し合いの場への参加意識を高めることができました。(アンケートは100%回収)
- ・円卓会議メンバーも参観者も、今後の動きに繋がる一歩となりました。
- ・新型コロナウイルス感染症の不安のある中、細部にわたる予防対策と個々人の協力の上、リアルな開催が実現できました。

アンケート

参観者には、まちづくり円卓会議の話し合いで、気づいたこと、感想、意見などをお聞きしました。全員から回答がありました。以下は抜粋。

- ・ にじ色の 7 色の幅は均一なものであると漠然と考えていたが、グラデーションの幅は自分をどこに位置づけるのかで、まったく違うものに映ることに気付かされた。
ゲイとレズビアンがみな仲がよいかといえばそうとはいえないように、LGBTQ と 5 文字で表現しきれない性の多様性というものに気付かされた今回の円卓会議に心から感謝したい。
- ・ 想定できないことを想定する場づくり、丸ごと受けとめられることの大切さ、そんなことをいろいろな地域の人と共有したいと思いました。
- ・ 発想の転換につながる SOGI についての議論が深まらなかったことが少し残念でした。
安心してカミングアウトできる環境を作っていくこと。
- ・ カミングアウトしたくない人への配慮がされた社会、街にしていくこと⇨制度がゴールだと思いました。具体的に何かできるか私ももう少し考えたいと思いました。
- ・ 性の垣根なく「その人らしさ」をうけとめていく第三者のあり方や環境づくりについて考えさせられる時間でした。
当事者の方や子どもたちにだずさわる方の話や意見をきくことで自分の中の考えにも幅がもてたように思います。
- ・ LGBTQ の話を中心に、人の多様性をどのように受け入れるか、また、私達が公私で考えていかなければならないかという気づきになりました。
- ・ 困難な正解のないテーマに悩みながらも一歩ふみだす力をいただいたように思いました。
- ・ 今回の経験を仕事で関わる人たちにも伝えていきたい、活かしていきたいと思っています。
- ・ 「カミングアウトありきの支援」という言葉…。LGBTQ に限らず、様々な「支援」の場面で、相手にカミングアウトを促すような声掛けをしていたなど気づき、考える(&反省する)きっかけになりました。

4. その他

感染防止対策

距離、マスク着用（メンバーはフェイスシールド着用）、受付での検温、指手など消毒、合わせて使用機材（マイクなど）もすべて共有することなく、一人一人に使用してもらうなど対策しました。開催中の換気にも注意し、参観者も安心して参加できるよう対策を徹底しました。

チラシ

